

2025年10月6日(月) 静岡新聞に掲載

ニホンウナギやハゼ、エビ、カニ続々！



石倉かごを開けて、すみ着いている生物を
観察する参加者＝静岡市清水区の庵原川

庵原川の生き物 多様性にびっくり

同会は2016年ごろから、庵原川でニホンウナギなどの生息環境を守る活動を続けてきた。ネットに石や竹筒

河川環境の再生を目指す全国組織「日本河川・流域再生ネットワーク」が国内各地で行う「小さな自然再生現地研修会」が5日、静岡市清水区の庵原川で開かれた。県内初開催。約100人が参加し、地元住民でつくる「いはらの川再生PJ会」が取り組む生物モニタリング調査を体験した。

清水区で調査・観察会

を詰めて立方体状にした「石倉かご」を川に設置。護岸を固めながら水生生物のすみかも保全し、定期的にかごを開けて、どのような生物がすみ着いているかを調べている。研修会は河口付近で、約2カ月前に設置したかごの内部を観察。参加者が石をどけたら、竹筒を振ったりすると数十匹のニホンウナギやハゼ、エビ、カニ類が見られた。静岡北高2年で科学部魚類班に所属する仲沢岳陽さん(16)は「普段調査している巴川水系とは生物相が異なる。身近な川にこれだけの生き物がいて驚いた」と目を丸くした。同会の伏見直基代表は「汽水域の多様な生態系に興味をもってもらいたい」と話した。(清水支局・山本一真)



採取された魚類は水槽に入れて観察した



学校法人静岡理科大学

静岡北高等学校